

近未来社会における道徳的地位 ：AI・オルガノイド・動物

近年、AI・ロボット技術やバイオテクノロジーの著しい発展に伴い、非ヒト存在の道徳的地位が倫理学上の大きな問題となっている。たとえば、人間と同じように自律的に振る舞うAI・ロボットは人間と同じような道徳的行為者・責任帰属の対象になりうるだろうか？また、幹細胞から作成されたヒト脳オルガノイドをはじめとする脳の代替物に道徳的配慮は必要とされるだろうか？本ワークショップでは実験哲学とAI・動物倫理の観点から、近未来社会における非ヒト存在の道徳的地位を包括的に議論する。

🕒 タイムテーブル（発表30分、質疑応答10分）

13:00-13:10 趣旨説明

13:10-13:50 稲荷森輝一（北海道大学）

「責任帰属にとって心的状態は重要か：実験哲学の視点から」

13:55-14:35 太田紘史（筑波大学）

「ヒト脳オルガノイド倫理における実験倫理的手法の導入とその成果」

14:40-15:20 竹下昌志（北海道大学）

「ロボットと動物の道徳的地位：行為者性と有感性」

15:25-16:05 久木田水生（名古屋大学）

「モラル・コンピューティングの技術的・倫理的課題」

16:10-16:40 全体討議

オンライン開催

参加には事前申込が必要です。

QRコードまたはurlからお申込みください

<https://forms.gle/UAS2GzBZyFxFxYsGB66>

申込締切：3月14日(金) 17時まで



開催日

3/17 (月)

13:00-16:40

※本研究会は トヨタ財団「先端技術と共生する新たな人間社会」（課題番号D22-ST-0028：近未来社会における新たな自由意志・責任概念）の支援を受けています

企画：稲荷森 輝一、竹下 昌志、宮園 健吾